

宮城県亘理町で風力発電

リベラルソリューション 震災復興を支援

風力発電・太陽光発電システムを手掛けるリベラルソリューション(本社東京都黒区、下田穰社長、電話03・6863・8118)は、東日本大震災の被災地、宮城県亘理町長瀬(ながとろ)地区で風力発電事業を開始する。売電事業主を選定し、7月に着工、11月ごろに運転を始める計画。安全性や静粛性に優れた小形風力発電を活用し、震災復興支援と国内のエネルギーミックス(電源多様化)推進に貢献していく。

建設地は「日本の重要湿地500」の一つである汽水湖「鳥の海」の南西岸に位置する約5万平方メートルの住宅地と農地。震災の津波被害により、住宅地は人が住めない状態となっている。同社は住民による跡地活用を要望を受け、17世帯が所

有する土地を買い取った。同地区では定格出力19・8結の小形風力発電設備を9基導入。年間平均風速は秒速5・5メートル、1基当たりの年間総発電量は約5万6千結、年間売電収入は約308万円を見込む。

風車1基ごとに売電事業



主を募集し、売電収入の一部を同町の復興支援事業に充てる予定。すでに複数社から引き合いがあるという。

導入設備は、今年1月に国内での販売代理店契約を結んだデンマークのソリッドウィンドパワー社製を採用した。風速が一定以上に強まると回転数を制御する羽根形状や、スマートフォンの風車のモニタリングや運転・停止などが行える遠隔監視システムなどで安全性を確保。自動車にも使われる制振ダンパーを搭載し、静粛性にも優れているのが特長だ。

同地区には太陽光発電も設置。今後、他の被災地や過疎地などで風力と太陽光

を併せた発電事業を展開する方針。下田社長は、「環境に優れた小形風力と太陽光のエネルギーミックスの普及を通じて地域に貢献していきたい」と述べた。